

第70回 IOMA 総会について



総会の模様

IOMA (国際酸素製造業者協会) の総会が、壮大な自然に抱かれたワイオミング州ジャクソン・ホールで開催されました。日本からの21名を含め、各国から約200名が出席しました。10月6～8日の期間に総会、ゲストによる基調講演及び会員からのプレゼンテーションが行われました。総会では、会計報告、理事等の役員選任議事が満場一致で可決されました。特筆すべきは、今回 IOMA 主催の晩餐会において、長年 IOMA 理事会委員を務めておられた岩谷産業株式会社牧野明次会長に対して IOMA より『Distinguished Service Award』が贈呈されたことです。晩餐会参加者から盛大な祝福の拍手が送られました。



牧野明次会長

基調講演では、『今後のビジネス』と『科学技術の大きなトレンド』の2件、業界からは『医療ガスを使った治療』、『炭酸ガス排出削減のためのガス応用技術』、『冷凍による自動フロン回収』の3件の講演が行われました。次回2014年の総会は日本(京都)で10月26～29日に開催される予定です。(国際部会事務局・仲山 一郎)

第2回 理事会・評議員会合同会議について

11月28日、メルパルク大阪で平成25年度第2回理事会・評議員会合同会議を開催しました。本会議には、理事定数20名の内16名、評議員は産業ガス部門定数38名の内27名、医療ガス部門定数50名の内40名が出席しました。

始めに豊田会長が挨拶し、「苦しい期間が続いたがようやく底入れの兆しが見えてきた。今後は各社立て直しを図り、一心不乱に邁進すべきではないか」と激励しました。その後、議長に選出された豊田会長の進行により審議が進められました。審議事項は「入会希望事業者審査の件」で、全会一致で承認されました。その後報告事項に移り、事務局員や委員がプロジェクターを使って半年間の活動状況を説明し、中間決算報告の後、篠塚常務理事が消費税増税への対応を説明しました。終了後懇親会を行い、理事、評議員、事務局間で懇親を深めました。詳細については2014年3月発行予定の「産業ガスレポート」で報告いたします。(広報委員会事務局・和田 彰)



挨拶する豊田会長

JIMGA e-ラーニングについて

e-ラーニングはパソコンやインターネットの普及とともに学校や企業において教育・学習ツールとして広く利用されるようになってきました。e-ラーニングはインターネットにつながっていればいつでも情報を見ることができ、情報提供者はアップロードした内容に変更や修正がある場合は迅速に情報の更新ができます。使用者と情報提供者のどちらにも利点があり、変更のたびに作り直さなくてはいけないCDやDVDでの情報提供に比べると労力や時間、コストの節約になります。JIMGA ではこのようなe-ラーニングの特徴を生かし、教育・研修WGが現在まで①『高圧ガスの安全基礎知識』、②『水素の安全な取扱い』、③『炭酸ガスの安全な取扱い』という3つのタイトルの保安安全知識の習得を目的としたe-ラーニングをホームページに掲載しました。現在WGでは『酸素の安全な取扱い』の作成に取り組んでおり、来年6月を目途にリリースしたいと考えています。

3つのe-ラーニングの内容について

①『高圧ガスの安全基礎知識』は、「高圧ガスハンドブック」(平成23年2月改訂)の「高圧ガスの基礎知識」(P3~P47)の内容を取入れています。高圧ガスの定義から始まり、緊急時の措置までをわかりやすいイラストや図解で解説し、実験などは動画で紹介しています。特に第4章の「高圧ガスの危険性」では多くの写真や動画を用い、発生する危険と安全対策をパワーポイントで説明しています。また、途中で進行を一時中断し、「coffee break」のアイコンをクリックすれば、疑問点を解決しながら幅広く興味のある知識が得られます。e-ラーニングで得た知識の再確認のため、章ごとに理解度テストが設けられており、正解率が60%以上で合格となります。問題はランダムに選択されるので、毎回同じ問題が出てくることはありません。

②『水素の安全な取扱い』は、水素は最近話題が多く、アクセス数が急激に増加しています。水素技術WGがセミナー用に作成した教材を再生したもので、水素の定義、用途と消費量、製造と原料、精製、貯蔵、輸送、供給形態、危険有害性、物理化学的性質、安全な取扱い上の注意、事故事例の各章で構成されています。理解度テストは最後に設けられており、また、研究開発の最先端を知るためにNEDOなどのサイトにもリンクしています。

③『炭酸ガスの安全な取扱い』は、全体の構成は水素と同様で、炭酸ガスの用途と消費量、製造と原料ガス供給地のマップ、精製、貯蔵、供給形態等が説明されています。炭酸ガスの相変化が動画で見られ、特殊な実験設備で三重点、超臨界の様子が目で確認できます。水素と同様に理解度テストも設けられています。

e-ラーニングは学習手段として効率よく知識を獲得でき、新しく業界に入ってきた方にとっては非常に役立つものと確信しています。JIMGAはこのようなe-ラーニングを無償で公開しており、一般の先生や学生の方々にもさまざまな産業に使われるガスの知識、安全な取扱い方法を学んで頂ければありがたいと思います。



e-ラーニングのトップ画面

(技術・保安部会事務局・達 嘉樹)

会員紹介 —上毛天然瓦斯工業株式会社—

所在地・群馬県安中市について

群馬県碓氷郡原市町及び磯部町（共に現、安中市）付近一帯は、地層の形成上各所にガスまたは石油の露頭が見受けられたため、古くから石油地帯として石油界の注目の的となっていました。明治37年頃、宝田石油株式会社がこの地で数本の石油井の試掘をし、また昭和14年から16年にわたり日本石油株式会社が数本の石油井を掘削したところ、少量の石油と多量のガスを確認しましたが、産油量が僅少なことから戦争のため、この地の徹底的探究を中止することになりました。しかし、多量に噴出したガスは、ほとんど炭酸ガスであることが確認され、このガスの利用については戦争中も研究されていましたが、結論を得ずに終戦となりました。

我が社の沿革

終戦後の進駐米軍、特に医療部隊にドライアイスの需要があるにも関わらず、供給量が少ない状況にあったため、この地域の鉱業権者の帝国石油株式会社は、原市町において天然ガスの採取、液化炭酸ガス及びドライアイスの製造を目的として、昭和22年5月22日に上毛天然瓦斯工業株式会社を創立しました。以来、65年に渡り、安中市原市をベースに東京、長岡、仙台への営業拠点の設置、炭酸ガス出荷基地を千葉県五井、富山、新潟に求める等、業容の拡大に努めて参りました。平成24年12月、手狭となった原市の事業所より、さらなる前進とより良い環境を求めて安中市松井田町八城に新社屋と工場棟を新設し、本社及び北関東事業所を移転し、今年で創立より66年を迎えることとなりました。



工場全景

より迅速なお客様のニーズに応える

主な営業品目である液化炭酸ガスにつきましては、飲料、溶接、鋳物、冷却、化学などの幅広い分野で使用されるようになり、効率的に配置された供給ソースから、東日本一円にわたる需要先に安定した供給ときめ細かな営業活動を通じて信頼を頂いています。また、LPガス部門につきましても、より快適な暮らしを提案し、地域に根付いた営業でお客様から選ばれる店作りを目指し、グループの販売店と共に取組んでいます。その他に、容器耐圧検査、ドライアイスの小分け販売、特殊ガス、次亜塩素酸ソーダ等の工業薬品、関連機器、配管工事などの分野でも、新しい環境、保全面から実績を伸ばし、今後もさらに飛躍できるよう社員一丸となり励んでいます。



液化炭酸タンク

JIMGAとの関わりと将来の備え

JIMGAとの関わりは、炭酸ガス技術WG及び関東地域本部・炭酸ガス技術G共に委員を選任し、各メーカー及び会員間で意見交換や、炭酸ガス保安講習会実施時には、スタッフとして微力ではありますが、地域に貢献できるよう取組んでいます。今後は、JIMGAのご指導を頂きながら、RFタグによる容器管理の導入や、容器回収等についても検討課題とし、取組んでいきたいと思っております。

(上毛天然瓦斯工業株式会社 代表取締役社長・山田 修一)

災害時の医療ガス等の供給に関する協定締結状況

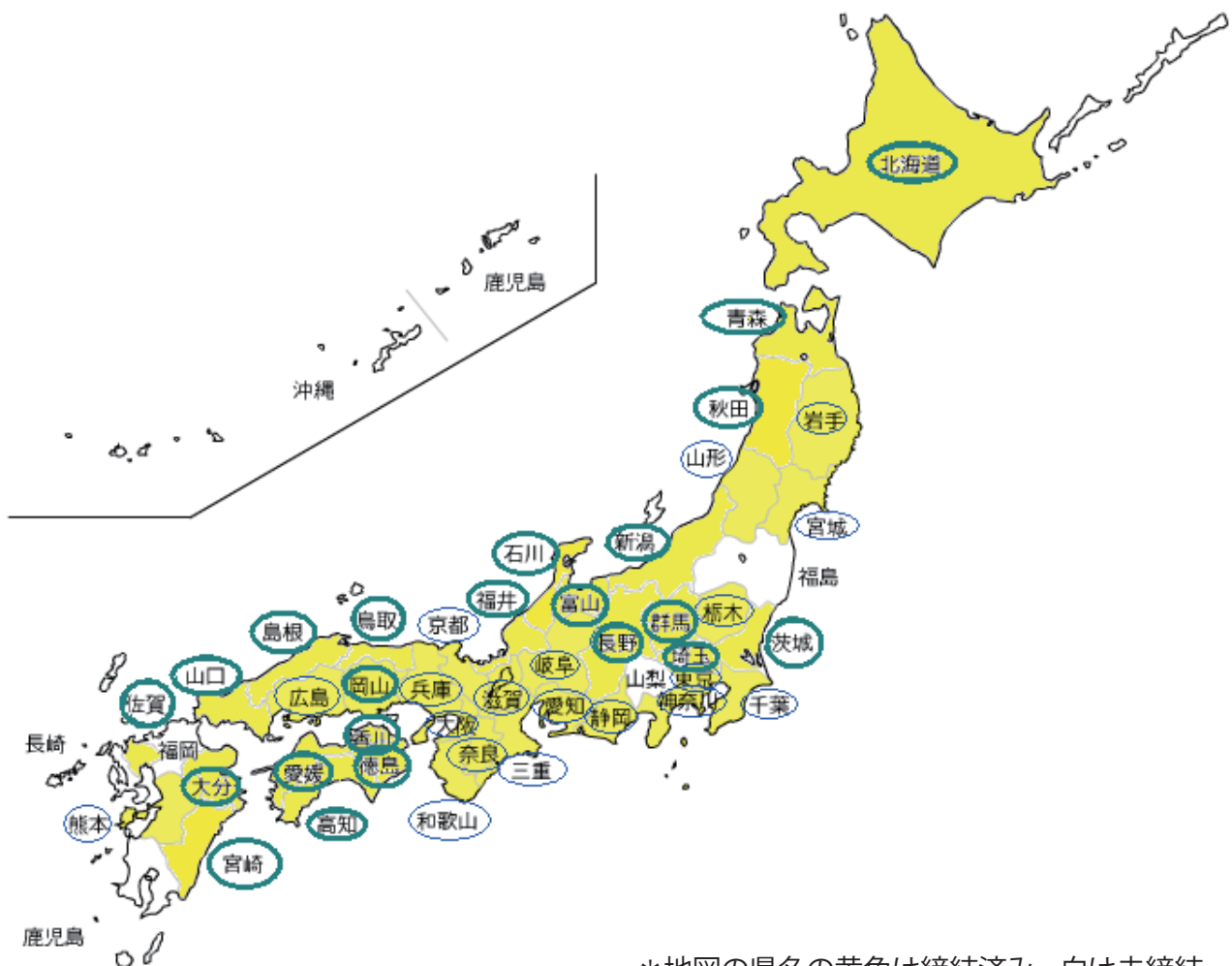
医療ガス部門の平成25年度重点課題のひとつに災害時防災協定の締結促進を掲げています。平成23年2月の時点で20都府県と締結していましたが、各県行政担当官の意識の高揚、医療ガス学会の先生方の後方支援もあり、本年11月1日時点で41都道府県との締結となりました。

現在、残りの6県との締結に向けた取組みを継続しており、全県締結に向けて活動を行っています。既に締結している都道府県とは、図上、あるいは実地訓練の実施等により、運用上問題のある点は見直し、都道府県担当官と意識の共有化を図る活動を展開しています。この活動の繰り返しが、有事の際に機動力が発揮できる体制作りにつながります。

(医療ガス部門・鈴木 正晴)

【災害時防災協定締結マップ】

(平成25年11月1日現在)



*地図の県名の黄色は締結済み、白は未締結

○ 平成23年2月時点の締結

○ 平成23年3月以降の締結

新事務局員紹介



名前：仲山 一郎（なかやま いちろう）
 生年月日：1959年4月3日
 現住所：神奈川県川崎市幸区
 略歴：1983年4月 日本酸素株式会社入社
 2002年6月 メディカル事業本部
 2009年4月 技術本部
 2013年11月 JIMGA 常務執行役員

趣味：毎週多摩川ベリをジョギングしています。汗をかいて体を疲れさせてリフレッシュをと思、ジョギングは入社以来断続的にですが続いています。

抱負：医療ガス部門の前身・日本医療ガス協会技術委員会委員、また産業ガス部門の国際部会IHC対応WG長の際には、JIMGAに大変お世話になりました。これからは、特にグローバルな活動に対してJIMGAが貢献できるように努めたいと考えております。



名前：徳富 栄一郎（とくとみ えいいちろう）
 生年月日：1961年2月2日
 現住所：東京都大田区
 略歴：1983年4月 大阪酸素工業株式会社入社
 2004年1月 リスクマネジメント部
 2007年9月 生産管理部
 2011年10月 品質マネジメント部
 2014年1月 JIMGA 常務執行役員

趣味：マイペースでのジョギング、天気の良い休日はバイクでツーリング

抱負：今までいろいろな現場で経験した知識を生かし、一日も早く会員の皆様に貢献できるように努めたいと思います。

今後の主要日程について

来年の第1回理事会・評議員会の日程が5月21日から5月19日に変更となりました。その他の本部の主要日程は下記の通りです。地域本部の会議の予定も含め、ホームページにも掲載していますので参照ください。（<http://sangyo-mem.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.phtml?Part=kaigi-01>）

行事名称	開催予定日	会場
平成26年賀詞交歓会	平成26年1月15日(水) 午後5時～	東京會館
平成26年度 第1回理事会・評議員会合同会議	平成26年5月19日(月) 産業ガス部門 正午～ 医療ガス部門 午後3時～	東京會館
平成26年度定時総会	平成26年6月10日(火) 午後3時30分～	東京會館
平成26年度 第2回理事会・評議員会合同会議	平成26年11月27日(木) 午後2時～	メルパルク大阪